

DOCTOR!

鳥取の地域医療を考えるマガジン ドクトリ！

vol.

15

2026 / Summer

DOCTOR!

第15号 2026年 8月発行 鳥取県地域医療支援センター

※本誌掲載の写真、図版、記事などの無断転載を禁じます。



特集1

南部町国民健康保険 西伯病院
ここからできる
心も身体も支える医療

特集2

鳥取県で医師のキャリアを築く！
私のキャリア紹介 vol.5 泌尿器科・脳神経外科編

鳥取県地域医療支援センターからのお知らせ

NEWS
1

鳥取県内43病院の医師数は足りている？
2026（令和8）年の『医師数調査結果』が出ました

鳥取県では、県内病院において必要としている医師数の現状を把握し今後の施策に生かすため、毎年1月1日現在で「医師数に関する調査」を実施しています。

「必要数」とは、現行の診療体制を基本とした上で、各病院が令和8年4月1日に必要としている医師数です。

「現員数」は令和8年1月1日現在の医師数で、臨床研修医を除いています。

鳥取県全体

必要数 1,403.7人

現員数
1,178.7人

不足数
225.0人

充足率 **84.0%**

県内全域で医師数は不足

東部保健医療圏

14病院

必要数 446.4人

現員数
354.8人

不足数
91.6人

充足率 **79.5%**

中部保健医療圏

10病院

必要数 209.9人

現員数
150.7人

不足数
59.2人

充足率 **71.8%**

西部保健医療圏

鳥大病院を除く18病院

必要数 333.7人

現員数
288.9人

不足数
44.8人

充足率 **86.6%**

鳥大病院

必要数 413.7人

現員数
384.3人

不足数
29.4人

充足率 **92.9%**

鳥取県地域医療支援センターについて

鳥取県地域医療支援センターは、鳥取県・鳥取大学医学部附属病院が連携し、鳥取県の地域医療の充実・発展のために2013（平成25）年1月に設置されました。私たちは、鳥取県の医師不足解消のために、地域枠などの医師のキャリア形成支援や医師の地域偏在解消に取り組んでいます。専任医師も勤務しており、皆さまのご相談などを伺っています。

ご相談や お問い合わせは こちらまで	鳥取県の医療・ 奨学金制度に関すること	鳥取県福祉保健部 健康医療局 医療政策課 〒680-8570 鳥取県鳥取市東町1丁目220 TEL 0857-26-7195 FAX 0857-21-3048
	医師のキャリア形成・ 相談に関すること	鳥取大学医学部附属病院 鳥取県地域医療支援センター 〒683-8504 鳥取県米子市西町36-1 TEL 0859-38-7005 FAX 0859-38-7006

とっとりドクター Naviのご登録を受付中！

鳥取県の地域医療に関心をお持ちの全国の高校生・医学生・研修医の皆さまに役立つ県内の医療情報や勤務に関する情報、医師としてのスキルアップに関する情報として、「DOCTOR!」やメールマガジンをお届けします。どなたでもご登録いただけます。

とっとりドクター Navi

登録申込フォーム ▶▶▶

<https://www.pref.tottori.lg.jp/273080.htm>



※なお、ご登録情報の変更についても、登録申込フォームで承っております。

広報誌名
『DOCTOR!』の由来

「DOCTOR」と「鳥取県」を合わせた造語です。医師の皆さんに、鳥取県で活躍してほしいという願いが込められています。

編集発行 鳥取県地域医療支援センター

〒683-8504 鳥取県米子市西町36-1（鳥取大学医学部附属病院内）
TEL 0859-38-7005 FAX 0859-38-7006
Eメール：t-chiikicen@med.tottori-u.ac.jp
Webサイト： <https://www2.hosp.med.tottori-u.ac.jp/t-chiikicen/>



□ 制作／有限会社キークード 〒680-0051 鳥取県鳥取市若桜町39 ログス文化会館1F TEL 0857-29-4018

「DOCTOR!」の
バックナンバーは
こちら▶▶▶



南部町国民健康保険 西伯病院

ここだからできる
心も身体も支える医療

メンタルヘルスへの理解やニーズが高まっている現代において、地域中核病院としてその診療が可能な西伯病院は頼れる存在だ。身体と精神、両方の疾患があっても院内の複数科で連携し、心と身体を丸ごと支える医療を実践しており、他にはない医療のカタチで地域の未来に光を灯している。

一般診療科+精神科で
心身トータルケアを実現

緑豊かな里地里山が広がる西伯郡南部町。町の中心を流れる法勝寺川の土手沿いは約5kmにわたって桜の木が立ち並んでおり、春色に染まるシーズンの風景は実に美しい。ここ南部町国民健康保険西伯病院は、そんなのどかな場所に佇んでいる。

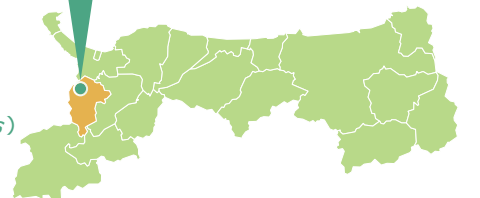
内科、外科、小児科といった一般診療科に加え、精神科が設置されているのがこの病院の大きな特徴。県内の自治体立病院の中では唯一となる。入院の病棟は、一般・療養の79床だけでなく、精神病床も99床を備えている。そのうち20床は認知症専用。精神疾患には、うつ病、統合失調症、神経症、不眠症など様々あるが、認知症もその一つで、年々増加している認知症患者に対して

南部町国民健康保険 西伯病院

診療科 11科

病床数 194床

(介護医療院16床を含む)



自治体立病院としては県内唯一精神科を有し、病床の半数は精神病床、地域の精神科医療に貢献する。院内に「認知症疾患医療センター」を設置しており、認知症専門の診療や家族の相談に対応。また、急性期・回復期・療養期まで幅広い患者の受入体制も整えている。2021年3月「へき地医療拠点病院」の指定を受け、精神科の巡回診療を行っている。



入院患者にとっては主治医が2人いるようなもの。心と身体、どちらのケアも受けられる安心感は大きいだろう。

外来もまたしかり。内科や外科を受診した後、精神科の診療も受ける「併診」の患者が多いという。地域の中核病院という高い診療レベルで、1

度の来院で複数科の受診ができることは、患者本人はもちろん、家族の負担もかなり軽減されるはずだ。

対応の幅が広がる
常に相談し合える好環境

精神科の存在は、現場で働く医師にも大きなメリットがある。内科の山本健嗣医師は、「これまでに勤務した町立病院では、精神科の先生とお話する機会はありませんでした。当たり前のように相談できる環境にあるのは、こちらが初めて」と語る。同じく内科の赤星彩那医師も、「〃もの忘れが進んできたけど、自宅での生活はまだできる〃という高齢の患者さんについて精神科の先生に相談し、社会参加ができるようデイケアにつなげていただいたことが何度もあります」と、協働のしやすさを喜ぶ。

大きすぎない病院の規模感も、診療科や部署を越えた速やかな連携を生み、若手医師のスキルアップにひと役買った。

ているようだ。「精神科の先生がおられる今の環境で、認知症の患者に対する投薬管理について勉強し、今後の診療に役立てたい」(赤星医師)、「周囲の多職種スタッフとの連携も図りやすい。将来、別の地域病院に派遣されることを想定して、ペーランの検査技師さんに検査手法や画像診断などを教わりにいっています」(山本医師)と、それぞれ意欲を燃やす。他の病院では得られない学びや経験によって若手医師の成長が促されているのも、西伯病院ならではの強みといえよう。

西伯病院 病院長
はせがわ じゅんいち
長谷川 純一 先生

「ちよつといいですか」

その一言が当たり前前に言えるから、

患者さんに十分なケアができる



◀ 病院敷地内の随所にある花壇や庭園は、いつも四季折々の花にあふれている。病院スタッフや地域のボランティアが手入れしており、きれいな花を見てホッとしてほしいという思いが込められている。

▼ 精神科デイケア、認知症デイケア「らくらく」が並ぶ2階廊下の「思い出街道」。再現された昭和30年代の街並みを歩けばタイムスリップした気分に。懐かしさに話も弾みそうだ。



「ICTを活用したオンライン診療も随分前から準備を進めてきて、昨年5月に初めて

利用者に喜んでもらおうという工夫だ。地域の要となる医療施設だが、南部町は米子市と隣接しており、同市内にある鳥取大学医学部附属病院、山陰労災病院、米子医療センターまでは10数kmと、それほど遠くない。ゆえに地域住民は、複数の中から病院を選択することができる。町民だからといって必ずしも西伯病院を受診するわけではないのが、他地域の自治体立病院とは異なる、こ

の病院の課題だ。だからこそ、地域の医療ニーズを捉え、それにどう応えていくか、病院の独自性をいかに出していくかが重要なポイントとなるのだ。

選ばれる病院を目指して新しいカタチを常に模索

2021年には、「へき地区療拠点病院」の指定を受け、準無医地区を対象に県内初の精神科巡回診療「こころの巡回診療室」を開始。小児科のWeb予約、同科の発達検査やカウンセリングなど、次々と新しい事業を展開している。保護者世代がスマートフォン



こんな取り組みも！



『こころの巡回診療室』

2021年にスタートした取り組みで、毎月第2水曜日の午後、西伯病院から南へ約6km進んだ中山間地域「南さいはく地区」を訪れ、地区集会所である上長田会館に「こころの巡回診療室」を開設しています。精神科医師が認知症やうつ病などの相談に応じるほか、集まった高齢者の交流や憩いの時間にもなっています。

西伯病院のロゴマークが入った巡回診療車は、軽自動車ながら車いすでの乗車が可能。周辺集落の患者さんの送迎にも活用し、“出かける医療、身近な医療”の推進に努めています。

いすね」と、長谷川病院長は未来を見つめる。新しい展開、様々なチャレンジに取り組む一方で、それに携わる医師が不足しているという大きな課題もあるが、「ここだからできる医療」に大きな意義を感じて、前へ前へと進んでいる。

*コネクテッドカー
常時インターネットに接続することが
できる通信機能を搭載した自動車

院内に心の癒やしをプラス
“あの頃の街並み”を再現

2006年に完成した5階建の施設は、アースカラーの外壁と切妻の屋根で周囲に馴染むようデザインされている。玄関周辺の花壇や広い庭には季節の花々が生き生きと咲いており、山の緑と相まって心が癒されるようだ。内装も随所に工夫が行き届いており、中央にある坪庭を囲むようにして受付や各診療科が設置されている。どの窓も大きく開放的で、まるでアートギャラリーを訪れているような気分になる。病院の2階には、精神科・神経科などの外来のほか、精神科・認知症専用のデイケアを行う部屋が並んでいる。その前の廊下は、古き良き昭和時代を彷彿とさせる木づくりの塀や電柱、昔の映画ポスターや商品の看板、街灯や赤提灯などでデコレーションされており、南部町法勝寺の懐かしい街並みを再現している。その名も「思い出街道」。認知症治療の回想法にヒントを得たもので、デイケアに訪れる

ガッチリ連携!!

内科・精神科の若手ドクターに INTERVIEW

県内の自治体立病院では、県派遣の若手医師たちが大いに活躍しています。そこで、西伯病院の若手の先生方がどのように連携し患者に寄り添う医療を実現しようとしているのか、その様子を伺いました。

From 内科

幅広い精神疾患への対応に驚き！ 毎日知見を深めています



内科
やまもと けんじ
山本 健嗣 先生

地域派遣で赴任する自治体立病院の中で、精神科があり常勤医師がいるのはここ西伯病院だけです。今年4月からこちらに勤務しており、当初は精神科のニーズがどこまであるのか分からなかったのですが、うつ病や統合失調症、不眠症、発達障害、依存症、認知症など幅広く対応していることを知りました。

私は、相談事を電話で済ませるのがあまり好きではないので、精神科の医師を訪ねて対面でお話しています。そうすることでお互いの信頼関係も深まります。

気軽に相談できる雰囲気、積極的な協力ありがたい

医療現場では、妄想や興奮、暴力といった認知症の周辺症状が重い、自分で主訴を言えないといった患者さんに会います。そうした症状がひどくなった患者さんへの薬の処方に困ったとき、精神科の先生に相談しました。先生方はとても気さくで話しかけやすく、すぐに「こういう向精神薬もありますよ」「薬の使用頻度を変えてみましょう」といった的確なアドバイスを下さって、本当に助かりましたね。

完治の難しい患者さんが、無事に元の生活に戻れたときはホッとします。



内科
あかぼし あやな
赤星 彩那 先生

From 精神科

違和感見逃さず、協働でケア

精神疾患で入院中の方が、何かそわそわしている、興奮して行動が落ち着かないといった様子が見られるとき、痛みや息苦しさなどを伴う身体疾患が原因であることも。疑われる場合はすぐに内科の先生に相談、連携して治療に当たっています。



精神科
やまもと だいち
山本 大地 先生

患者さんのために遠慮は無用！

患者さんをそばで支え、その人にフィットする環境と一緒に探るのが私たち精神科医の役目。精神疾患に加えて内科的な問題を抱え、日常生活に影響している方が多いので、専門的な意見が必要な時はお互いに遠慮なく相談するよう心がけています。



精神科
さわだ かおる
澤田 郁 先生

県内泌尿器科・脳神経外科専門研修プログラム紹介

鳥取大学医学部附属病院

鳥取大学泌尿器科専門研修プログラム

脳神経外科専門研修鳥取大学医学部プログラム

お問い合わせ 鳥取大学米子地区事務部総務課専門研修等係 TEL：0859-38-7005 e-mail：senmoni@ml.med.tottori-u.ac.jp



鳥取県で医師のキャリアを築く！ 私のキャリア紹介

～専門研修プログラム基本領域別～

専門医・専攻医の先生方が実際にどのように専門研修に取り組まれたか、そして今後のキャリアをどう捉えておられるかを専門研修プログラムの基本領域ごとに、シリーズでご紹介します！

Vol.5

～泌尿器科・脳神経外科編～



専門研修を振り返って

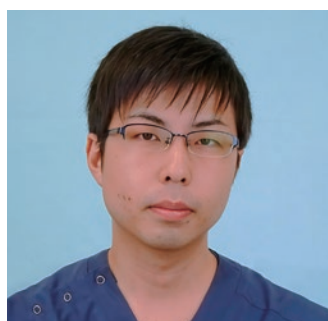
診療科選択の決め手は、教授（脳神経外科黒崎雅道教授）の人柄です。

鳥大病院の脳神経外科での勤務は、オンとオフがはっきりしており、当直に関しても、当直・第1待機・第2待機合わせて4日に1回の担当となるため、メリハリをつけて充実した研修を行うことができました。

今後の抱負

4年間の専門研修を経て、昨年9月に脳神経外科専門医を取得しました。

脳神経外科のサブスペシャリティは、腫瘍や血管内治療、脊



鳥取大学医学部附属病院
脳神経外科

すえよし しゅんたろう
末吉 駿太郎 先生

臨時養成枠

選抜方法

鳥取大学医学部医学科
一般選抜（前期日程）地域枠

鳥取県日吉津村生まれ。2019年3月、鳥取大学医学部医学科卒業。

随、外傷、小児など多数あります。

上司などと相談して進路を決めたいと思いますが、初診から終診まで責任をもって診る医師になれるよう頑張ります。



専門研修を振り返って

泌尿器科は診断から治療まで1つの科で完結でき、内科と外科の両方の側面を持っていることに魅力を感じ鳥取大学医学部附属病院泌尿器科への入局を決めました。

泌尿器科の専門研修は4年間で、最初の1年間は鳥取大学で、残りの3年間は市中病院で研修しました。山陰は高齢者が多いため泌尿器科のニーズが高く、専門研修の症例には恵まれていると感じました。

感じました。



米子医療センター
泌尿器科

みはら ゆう
三原 悠 先生

臨時養成枠

選抜方法

鳥取大学医学部医学科
一般選抜（前期日程）地域枠

鳥根県松江市生まれ。2020年3月、鳥取大学医学部医学科卒業。

今後の抱負

泌尿器科専門医取得が当面の目標です。泌尿器科は良性・悪性疾患に至るまで守備範囲が広く、まずはどの分野に關しても苦手意識を持たずに診療できるように知識や技術を身に付けたいと考えています。

末吉先生のキャリアパス

勤務地	臨床研修 山陰労災病院		脳神経外科専門医研修 鳥大病院：脳神経外科専門研修プログラム				サブスペシャリティ専門研修・勤務など		
	山陰 労災病院	山陰 労災病院	鳥大病院 →野鳥病院	鳥大病院	鳥大病院	山陰 労災病院	鳥大病院	鳥大病院	
年度	2019 医師1年目	2020 医師2年目	2021 医師3年目	2022 医師4年目	2023 医師5年目	2024 医師6年目	2025 医師7年目	2026 医師8年目	2027 医師9年目
地域枠義務	県内限定	県内限定	12カ月	12カ月	12カ月	12カ月	12カ月	12カ月 (予定)	

臨時養成枠の卒業後従事要件

- 臨床研修：県内に限定
- 地域勤務：臨床研修修了後、9年間のうち6年を県内指定病院で勤務、
※2022年度以降の入学生：臨床研修開始後12年間のうち、9年を県内指定病院で勤務、
かつ、うち4年間は知事指定区域での勤務が条件。

※詳細は鳥取県キャリア形成プログラムを参照（<https://www.pref.tottori.lg.jp/317209.htm>）→



2027年3月末日
従事要件
達成見込み

三原先生のキャリアパス

勤務地	臨床研修 鳥大病院：山陰たすきがけプログラム		泌尿器科専門医研修 鳥大病院：泌尿器科専門研修プログラム				サブスペシャリティ専門研修・勤務など	
	松江 赤十字病院	鳥大病院	鳥大病院	浜田医療 センター	山陰労災 病院	松江 市立病院	米子医療 センター	
年度	2020 医師1年目	2021 医師2年目	2022 医師3年目	2023 医師4年目	2024 医師5年目	2025 医師6年目	2026 医師7年目	2027～2029 医師8～10年目
地域枠義務	県内限定	県内限定	12カ月	猶予期間	12カ月	猶予期間	12カ月	36カ月(予定)

臨時養成枠の卒業後従事要件

- 臨床研修：県内に限定
- 地域勤務：臨床研修修了後、9年間のうち6年を県内指定病院で勤務、
※2022年度以降の入学生：臨床研修開始後12年間のうち、9年を県内指定病院で勤務、
かつ、うち4年間は知事指定区域での勤務が条件。

※詳細は鳥取県キャリア形成プログラムを参照（<https://www.pref.tottori.lg.jp/317209.htm>）→



2030年3月末日
従事要件
達成見込み

県外医療機関での専門研修は猶予期間で対応

新たな地域枠が誕生！ 県があなたのキャリアをサポートします

2026年、鳥取県では新たな地域枠「とっとり医療人養成枠」（鳥取県地域医療強化医師確保奨学金）がスタートしました。出身地や高校所在地を問わず全国から志ある学生を募集し、鳥取県の未来の地域医療を担う医師の育成を支援します。

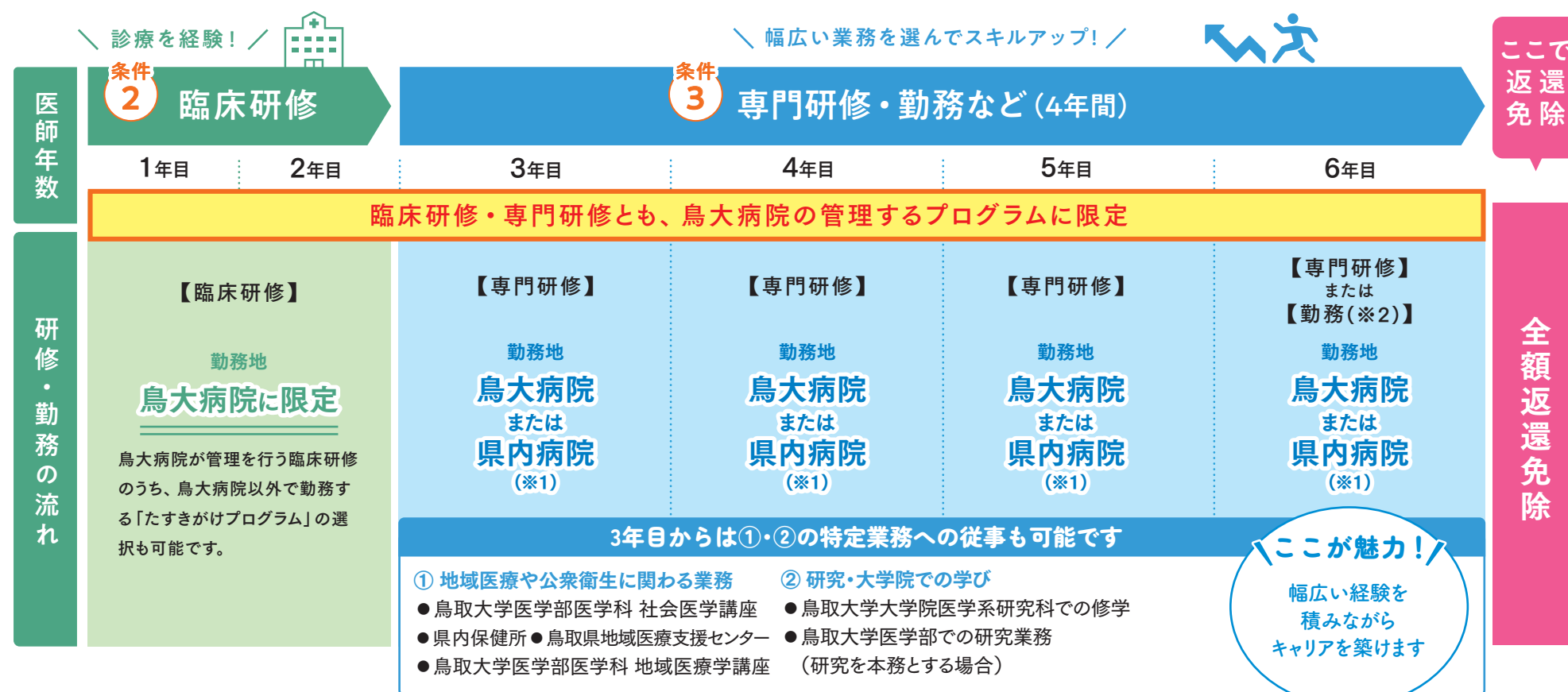
出身不問！

全国から志を募る！

とっとり医療人養成枠 スタート！



卒業後のキャリア形成イメージモデル（あくまで一例です）



※1 鳥大病院を基幹施設とする専門研修プログラムで定められた県内の連携施設（病院）等（専門研修期間中に、県外の連携施設（病院）等での研修を行った場合、最長2年を猶予期間とみなす） ※2 専門研修修了後の県内の病院等での勤務を、専門研修期間に加える

とっとり医療人養成枠の学生を支える

NEW!

地域医療強化医師確保奨学金

とっとり医療人養成枠で入学した学生を対象とした、奨学金制度です。

出身地
不問

募集人数
7人以内

月額
12万円

あなたのキャリアを
鳥大病院が一貫支援

対象者及び卒業後条件

- 条件1 「鳥取大学医学部医学科一般選抜（前期日程）とっとり医療人養成枠」で入学 ※出身地、卒業年度、高校の所在地不問
- 条件2 卒業後、鳥取大学医学部附属病院が管理する臨床研修
- 条件3 臨床研修修了後、鳥大病院を基幹施設とする専門研修または知事が指定する特定業務に4年間従事

詳細な条件はこちらから



自分に合った奨学金、探してみませんか？

各奨学金制度の詳細はこちら



鳥取県では、地域医療に貢献したい学生を応援する奨学金制度を複数用意しています。希望するキャリアやライフプランに合わせて、最適な制度をチェックしてみませんか？

未来の医療人たちが集いました！



患者さんの人生そのものに
向き合い、心を通わせる
医療人を目指します

新入生が知事を表敬訪問しました！

2026年4月6日、地域枠新入生による知事表敬訪問が行われました。学生たちはそれぞれの志や将来の目標を語り、平井知事や永島医学部長から激励の言葉が贈られました。新設された「とっとり医療人養成枠」の第一期生からは代表の土手さんが決意を表明。未来の地域医療を担う第一歩を踏み出しました。

皆さんの成長を、
県全体で
応援しています！



「地域枠」で
「地域湧く」未来へ！
平井知事

1度は行くべし！ TOTTORI★イチョオシ名鑑

地元の魅力を知り尽くす謎の編集部員「SR」が、観光地とグルメを毎月1カ所ずつご紹介しします。せっかくの鳥取LIFE、楽しみなきゃ損ですよ！

東郷湖畔の自然と溶け合える 極上のアウトドアリゾート

東郷湖畔を臨む立地を生かして、はわい温泉の老舗旅館が自然を満喫できるグランピング施設を展開。建築家・隈研吾氏とSnowPeak社がコラボしたモバイルハウス「住箱」は、4棟全てがレイクビュー。室内やウッドデッキでつろぎながら眺める水景パノラマは最高です！

ゆらめく炎に癒されるBBQや
たき火はアウトドアの醍醐味。
カヌー&サップ体験(10/31ま
で)、併設のカフェで頂く地元
食材たっぷりのピッツァに加え、
旅館の源泉掛け流し温泉まで
楽しめ、心もカラダもリフレッ
シュできますよ！



水景色の指定席 湖屋(KOYA)



住 東伯郡湯梨浜町はわい温泉15
☎ 090-9415-1085 (受付時間9:00~21:00)
休 水曜日
※最新情報はSNSでご確認ください。
¥ 1泊 8,800円~
P あり(無料)
🚗 山陰道はわいICから車で約8分



宿泊&体験予約は
こちらから！



ジェラテリア タストカケル gelateria+X



▲カシベリーと芳醇カカオのプレートパフェ
1,595円

住 鳥取市今町2-201 ☎ 080-6372-0336
営 15:00~22:00
休 月・火・水曜日
P なし(近隣のコインパーキングをご利用ください)
🚗 JR鳥取駅から徒歩で約5分

ジェラートは
コーンやカップで
TAKEOUTもできるよ！



爽やかジェラートで楽しむ 味と香りのたし算かけ算

ワインソムリエがその豊かなスキルで創り出すジェラートは、イチゴやレモン、ブルーベリーといった旬のフルーツだけでなく、実山椒や生姜、カルダモン等のハーブやスパイスも駆使。絶妙な組み合わせ、素材の味が生きているフレーバーばかりです。

ジューシーな「カシスと4種の濃いベリー」、リッチな味わいの「濃厚チョコラータ」が楽しめる人気のパフェは、2つを合わせて調和を楽しむのがオススメの食べ方だとか。自家製ビスコッティにディップするのもお忘れなく。贅沢で大人なスイーツタイムをどうぞ♡



若手医師・医学生REPORT

DOCTORI!のタマゴ

「これから“DOCTORI!”になるぞ」と頑張っている先輩たちに、これまでの歩みや現在の様子を聞いちゃいました！

未来の縮図「鳥取」で見つける医師の道



鳥取大学
医学部医学科 6年

こはま ちあき
小濱 千明 さん

2019年 白陵高等学校(兵庫県) 卒業
2021年 鳥取大学医学部医学科 入学

「鳥取県は未来の日本の縮図」というコラムを見たのが、鳥取県臨時養成枠を選ぶきっかけでした。そのコラムでは鳥取県は特に高齢化が進んでおり、将来の日本で行われるであろう地域医療が行われているということが語られていました。もともと地域医療に貢献できる医師になりたいとは思っていたのですが、具体的な方針は考えていませんでした。そんな中でこのコラムを読み、ここから私が進むべき道が見つかるかもしれないと感じたため鳥取大学への進学を決めました。

入学後は授業やイベントを通して地域医療について学べました。鳥取県は未来の日本の縮図というコラムを見たのが、鳥取県臨時養成枠を選ぶきっかけでした。そのコラムでは鳥取県は特に高齢化が進んでおり、将来の日本で行われるであろう地域医療が行われているということが語られていました。もともと地域医療に貢献できる医師になりたいとは思っていたのですが、具体的な方針は考えていませんでした。そんな中でこのコラムを読み、ここから私が進むべき道が見つかるかもしれないと感じたため鳥取大学への進学を決めました。



休日のお散歩で
街の魅力に出会う

健康面が気になり始めたので、休日は散歩を行うようになりました。米子市内でも自然や古き良き街並みが多く、近くを歩くだけでも楽しむことができます。最近初めて米子城跡を登ったのですが、景色がきれいだったので、ぜひ一度は登ってほしいです。

大好きな地元で学び、一人前の医師へ



山陰労災病院
臨床研修 2年目

かとう しゅう
加藤 秀 先生

2018年 米子東高等学校 卒業
2025年 鳥取大学医学部医学科 卒業
2025年 山陰労災病院 臨床研修医

私が鳥取県で働こうと思ったきっかけは、生まれ育った地元が暮らしやすく、医師として地域に貢献したいと考えたからです。山陰労災病院を研修先に選んだ理由は、二次救急病院で多くの症例を経験でき、学生の実習で訪れた際に指導医の先生の教育的な姿勢に惹かれたためです。当院の研修では1年目に地域医療を除く必修分野の研修が終了するため、2年目を自分の志望分野に合わせて比較的自由にローテーションを組めることも魅力だと思います。

また、知識の共有を行い合える心強い研修医の仲間がおり、プライベートでも食事や遊びに行ったりして楽しく研修ができています。来年から循環器内科に進むことを考えており、多くの人に必要とされる仕事へのやりがいと不安の両方を抱えながら研修に取り組んでいます。一人前へ向けての道のりはまだ長いですが、皆さんの役に立てるよう、日々精進していきたいと思います。



思わず立ち止まり
カメラを向ける

米子市皆生にある山陰労災病院の近くに引っ越してから、休日は海岸沿いを散歩したり走ったりしています。夕焼けやライトアップがとてもきれいで普段写真を撮りませんが、思わず立ち止まってカメラを向けてしまいます。